

県民コメント制度に基づく結果の公表
(第10次埼玉県職業能力開発計画) について

埼玉県では、働く意欲のある誰もが職業能力を高め、その力を十分に発揮することにより、本県産業の活力の向上を図ることを目指して、「第10次埼玉県職業能力開発計画(平成28年度～平成32年度)」を策定しました。

施策の検討にあたって、平成28年6月22日(水)～平成28年7月21日(木)の間、県民コメント制度に基づき、「第10次埼玉県職業能力開発計画(案)」について、県民の皆様から御意見を募集したところ、3件の御意見・御提案をお寄せいただきました。

寄せられた御意見・御提案及びそれに対する県の考え方を公表いたします。

1 意見募集期間

平成28年6月22日(水)～平成28年7月21日(木)

2 意見の提出者及び意見件数

区分	人数・団体数	意見件数
郵送	1	3
F A X	0	0
メール	0	0
合 計	1	3

3 意見の反映状況

区分	意見件数
A 意見を反映し、計画案を修正したもの	0
B 意見の趣旨が計画に含まれているもの	1
C 意見の趣旨を実施段階で参考とするもの	2
D 意見を反映できなかったもの	0
E その他	0
合 計	3

第10次埼玉県職業能力開発計画（案）に対するご意見と県の考え方

★『意見の反映』欄

A＝意見を反映し、計画案を修正したもの B＝意見の趣旨が計画案に含まれているもの C＝意見の趣旨を実施段階で参考とするもの D＝意見を反映できなかったもの E＝その他

No.	頁	意見の内容	県の考え方	意見の反映
1	34	<p>(3) シニアの就職支援</p> <p>1 生産年齢人口が減少しシニア世代が増加している人口構造において、働く意欲のあるシニアの就労を支援することは、就業人口を増加させるためには有効かつ人財の活用として大いに施策を展開することである。</p> <p>健康で元気な高齢者が大勢いるのであるから、これらシニアの人材を活用しないのはもったいないことであり、安倍首相のいう「一億総活躍社会」もこうした取組にも通じるものだと思う。</p> <p>シニアの働く場を広げることによって働く意欲を喚起することに繋がるから行政は企業に対しシニア雇用拡大を働き掛けるとともに支援を強化することである。</p> <p>2 シニアの活躍できる場を拡大するために企業に働きかけるとともに、シニア活用に積極的な企業を広く県民に周知することは極めて適切である。</p> <p>企業はシニアの経験を即戦力として活躍してもらえるメリットがあること、働くシニア自身も経験を活かせるので生き甲斐となって両者にとってプラスとなる。</p> <p>主な取組に掲げている5つの施策を確実に実施していくことである。3番目のシニアが働きやすい職場環境づくりの推進については、企業に依存しないで行政が積極的にアドバイスをすべきと思う。例えば、働き掛けに当たっては、労働契約、労働環境問題に詳しいアドバイザーを派遣するなどきめ細かな対策を講ずることである。</p>	御意見の趣旨を踏まえ、施策を推進してまいります。	B

No.	頁	意見の内容	県の考え方	意見の反映
2	38	<p>(7) 学校段階における職業意識の形成と多様な人材の育成</p> <p>1 職業とは、労働とは何かといった哲学的な教育も必要であるが、現実的・経験的教育が重要である。自分の性格に合った職業を選ぶこと、適性を見出すことは難しいものである。職業を短期間で変える若者は適性がないという者が多いようであるが、そのような若者は、自分を仕事に合わせようとはしないのだと思う。</p> <p>2 仕事に合うように自分を変えることは相当の努力と忍耐が必要である。適性の職業に就けない人も多いと思う。希望する仕事が見つからない人も多くいるのである。</p> <p>仕事を簡単に変えられない人の場合は、先に述べたように仕事に自分を合わせようと思う。これは消極的態度ではあるが、リスクは少ないのではないかと思うし、安全な生き方である。「石の上にも三年」のことわざのように3年も辛抱すれば仕事に慣れてきて天性のものと思えるようになり成功へと導かれるのではないだろうか。</p> <p>職業意識の形成と育成には、理論だけではない現実に則し努力してきた経験豊富な先輩等の体験を取り入れた教育が効果的だと考える。</p>	<p>施策展開の参考にさせていただきます。</p>	<p>C</p>
3	45	<p>(5) 人手不足分野の人材育成</p> <p>働き手不足の原因は労働環境や待遇が他の分野と比較してよくないことが大きいのではないかと推測される。建設業分野では肉体的な単純労働が嫌われる傾向のようだが、機械化が進んでいるので将来は明るい。どの分野の職業であっても、きつく、厳しいものであり、それに耐えてこそ一人前の職業人になることを自覚させることである。</p>	<p>施策展開の参考にさせていただきます。</p>	<p>C</p>